



Lis Blanc

(リス・ブラン)——フランス語で「白百合」

No.89

学報リス・ブラン(白百合)

発行/仙台白百合女子大学 〒981-3107 仙台市泉区本田町6番1号
TEL 022-372-3254 URL <https://sendai-shirayuri.ac.jp>

(転用・転載を禁じます) 編集/大学広報室

本号の主な内容

- 01 巻頭言
- 02 センター紹介
- 04 課外活動報告
- 05 留学生紹介・新任教員紹介
- 06 トピックス
- 07 2024年度財務報告・寄付金の御礼
- 08 2026年度学生募集について



時代と共に、世界と共に

仙台白百合女子大学学長
加藤 美紀

2025年は皆様にとつてどのような年だったでしょうか。カトリック教会では25年に一度の聖年を祝いました。聖年とは、負債を免除し、奴隷を解放する旧約聖書の「ヨベルの年」に由来し、過去の罪が赦され、償いが帳消しになる特別なお恵みの年です。今回の聖年のテーマは「希望の巡礼者」。先行き不透明な現代世界にあつて、私たちが本物の希望を見つけられるように、との願いが込められています。

今年の夏、本学の創立母体であるシヤルトル聖パウロ修道女会のローマ総本部で開催された総会に40カ国代表のマ・スールたちと共に参加し、4大バジリカの「聖なる扉」をくぐることができました。「イエス・キリストの希望の光を人々に伝えたい」。創立の源泉に息づくその熱誠が1696年の誕生から3世紀余を越えて生き継がれてきたこと、世界五大大陸で教育・福祉・医療と多彩な活動を展開しながらも、心は一つ、同じ精神を共有していることは誠に不思議で、まさに神の御業に他ならないことを実感する日々でした。

今年の教皇選挙は同名の映画公開のタイミングと相まって世界的注目を集めました。総会中、バチカンのサンピエトロ広場で新教皇レオ14世司式のミサにもあずかりました。それはミレニアル世代のカルロ・アクティスを聖人の位に上げる列聖式でした。カルロは、ゲーム、ポケモン、ペット、サッカーが好きなごく普通の少年。惜しくも15歳の若さで病死しますが、奇跡が起きたのはそれからです。彼の遺骸は腐敗せず、トレーナーとジーンズに身を包みスニーカーを履いた生前の姿のままイタリア中部アシジの教会に安置されているのです。巡礼して聖カルロを目の当たりにすると、「死は命への通路だから、怖がらないで」と母親に語った最期の言葉どおり、永遠の命がリアルに感じられました。

「愛と愛が創り上げたものは永遠に残る」。第二バチカン公会議はそう宣言しました。愛は決して滅びない。そのことを聖カルロは証しているのだと思います。得意のコンピュータ技術を使ってインターネットで神の愛と慈しみを伝えたカルロは「神のインフルエンサー」と呼ばれます。人里離れた山奥にこもって修行に明け暮れる隠遁者ではなく、置かれた場所で神と親しみ、自分なりに神の愛を表現したカルロ。ありふれた日常の中で誰もが神に近づけることを教えてくれる新聖人は、今までにないタイプの新しい魅力があります。カルロの列聖は、教皇フランシスコが生涯を投じた改革の一つの実りであり、カトリック教会が新しい時代と共に、世界と共に変わろうとしている、そのシンボルにも見えました。教会の中心に位置するカトリック大学も「時代と共に、世界と共に」神の新しいさと神がもたらす驚きに開かれていたいと思います。

ステラマリスセンター
開所のご挨拶ステラマリスセンター長
熊谷 治子

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。おかげさまで、東北唯一のカトリック大学である本学に、地域貢献・高大連携・学修支援の機能を持つ新しい総合センター、ステラマリスセンターが誕生いたしました。

2025年7月12日(土)ウェルネスセンターと本センターの合同開所式が行われ、記念講演会として東海大学特命副学長の上田紀行先生よりご講演賜りました。開所式では、加藤学長と、両センター長からの挨拶の後に、サプライズで本学客員教授である加藤二三先生から心のこもった本学と地域の発展を願うお祝いのメッセージをいただきました。交流会では、各施設の見学や茶道部の学生たちが浴衣を着てお茶を振る舞う祝茶会が行われ、沢山のお客様にお点前を披露することができました。また多くの報道関係者の皆様も、熱心に両センターの活用方法や取り組みを取材していただきました。

ステラマリス (Stella Maris) とは、ラテン語で「海の星」を意味し、航海の無事を見守ってくださる聖母マリア様を表す言葉です。中世ヨーロッパでは、航海の際に夜空の星を目印としており、常に北を指している星を「海の星」と呼んでいました。このことから、本センターは、伊達政宗の命を受けた使節団として海の星をたよりにヨーロッパへ渡り、スペイン国王やローマ教皇に謁見して通商交渉を行った、いわば地域貢献の先駆者ともいえる支倉常長にあやかって、人生という航海の道標となる行事・イベントを地域に提供していければと願っ

ております。

本学の取り組み地域貢献部門の主なイベントとしましては、「みやぎ県民大学学校等開放講座」・「学部仙台コンソーシアムサテライトキャンパス講座・各種出張講話、仙台市泉区の地域課題の解決するための支援事業「いずみ絆プロジェクト」や「泉マルシェ」・「選挙啓発活動」、近隣の中学校からの「職場体験」、子ども教育学科の協力による子育て支援「ゆりっこ広場」、地元企業との連携として「南高梅の試食会」や水産物普及活動の商品開発本田町の町内会との連携として「桜の学庭開放」などがあります。

高大連携部門としましては、姉妹校との連携を活かした「仙台白百合みんな食堂」を、本学の健康栄養学科の協力のもと、カトリック東仙台教会や泉区中央市民センターにおいて年に数回開催し、各々の季節にちなんだ郷土料理をふるまうことで地域の方々との交流を深めつつあります。また、大学と高校を繋ぐ「感謝の手紙プロジェクト」では、これまで50件程の感謝の手紙を出身高校へとお届けしてまいりました。2月には、河北新報社のご協力により、連携協定校の皆さんには入学前教育として「オンキャンパスワークショップ」も提供予定です。

学修支援部門では、本学の4学科それぞれの特性を活かした講演会や勉強会等が一年を通じて随時開催されています。特に秋以降は「クリスマスリース作り」、「カリグラフィー講座」、「楽しい英語講座シリーズ」を開催し、その一部は地域住民の方々にも開放する予定です。また、2025年度白百合祭では、キャリアアソシエーツ課と本センターの共同企画として卒業生のホームカミング企画「キャリア・カフェ」において在学生と卒業生の情報交換の場を提供した他、防災意識の啓蒙活動の一環として自衛隊協賛による防災グッズの展示も

いたしました。

「一人ひとりのいのちが輝くために」をモットーとする本学の新センターの取り組みが、このように多岐にわたるのには、その目指すところが地域再生のささやかな拠点となることからです。大東建託株式会社の「いい部屋ネット街の住みこち」ランキング2025(東北版)において、本学の近隣の市町村である富谷市が1位、2位は利府町というように東北でベストスリーにランクインしています。本学の左手が富谷市、右手が利府町にあたりますので、その中心にある本学のある泉区本田町も「住みこち」ランキングで上位を目指せればと考えております。地域連携の一例として、大衡村村長の小川ひろみ氏が、本学卒業生で同窓会員でもあることから2024年度白百合祭での講演を機に、本学のクリスマスバザーで大衡村の特産品の販売、村の「食の学び事業」において本学の「自分史」を書く企画、「大人のキャンパスツアー」等が実施され、今後さらなる連携強化が期待されます。

もうすでに40件弱のお申込みをいただいておりますが、ステラマリスセンターでは、地域住民の皆様との絆を深めるべく、大学構内の図書館や食堂が利用できる「白百合パスポート」の発行をスタートしたばかりです。この「白百合パスポート」を手にした方は、白百合ファミリーの一員ですので、キャンパス内でどうぞお過ごしください。英語では、「Please make yourself at home.」at home、その言葉どおりに、「白百合パスポート」会員の皆さまには、新しい家、あるいは新しい家族との時間を過ごすつもりでご利用いただければ幸いです。

最後に卒業生向けに思い出話を。私自身が学生時代にポエトリー・サークルで暗唱する詩として、大航海時代のコンパスが新大陸アメリカを発見までのドラマを描いた詩を、

英語科初代科長シスター・マリ・フィロメーヌ先生より推薦していただきました。この詩は、学校法人白百合学園の前理事長である故シスター・式井久美子先生に発音指導をしていただいた思い出の詩です。その内容は海の星ステラマリスにびつたりですので、みなさまの益々のご健康とご多幸をお祈り申し上げつつ、その一部抜粋を本稿の結びの言葉とさせていただきます。

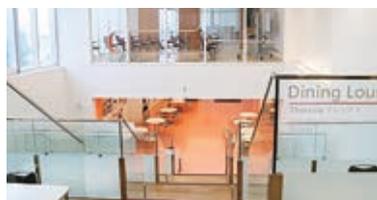
Sail on! Sail on! And on!

— by Joaquin Miller

(航海を続けよう！ 航海を続けよう！
そして続けよう！)



ステラマリスセンター施設外観



施設内観



白百合祭でのキャリア・カフェの様子

学生一人ひとりの「こころ」と「からだ」と「学び」を支える場に

ウエルネスセンター長
家子 敦子

昨今、大学生を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。高校から大学への進学率が上昇する中で、学生のバックグラウンドや学びの目的はますます多様化しつつあります。進学・就職への不安、経済的な問題に加え、コロナ禍以降に顕著となった孤独感や疎外感、コミュニケーションの難しさなど、学生が抱える課題は年々複雑化しています。こうした中で、心身の健康に課題を抱える学生や、発達特性、精神的な不調など、従来の支援体制だけでは十分に対応しきれないケースも増えています。

このような現状を踏まえ、本学では「学生の生活と心身の健康を包括的に支える仕組みの整備」が課題であると位置づけ、2025年4月1日、学内に新たな支援拠点として「ウエルネスセンター」を開設いたしました。大学という教育機関が、単に学問を教えるだけでなく、学生一人ひとりの「生きる力」や「学び続ける力」を支えることが求められている——その思いから生まれたセンターです。

ウエルネスセンターは、「学生相談部門」「特別支援部門」「保健部門」の3部門で構成されています。これまで学内で縦割りに機能していた各相談窓口を一本化し、学生がどのような悩みを抱えていても、まずは気軽に足を運べる「ワンストップ相談体制」を整えました。

学生相談部門では、経験豊富な非常勤カウンセラーを新たに採用し、兼任教員と

もに2名体制で、メンタルヘルスや人間関係、進路、学修など多岐にわたる相談に対応しています。学生一人ひとりの抱える課題に丁寧な耳を傾け、寄り添いながら支援しています。

特別支援部門では、文部科学省が推奨する「専任コーディネーター配置」の理念を踏まえ、本学では専門資格を持つ教員が特別支援コーディネーターとして兼任し、多様な特性を持つ学生の支援を展開しています。学生自身が自らの特性を理解し、主体的に学びをデザインできるように、対話を重ねています。

保健部門は、従来の保健室を2号館へ移転し、センターの総合窓口として機能を拡充しました。身体面の健康管理から感染症対応、生活習慣の改善相談まで幅広く対応しており、3部門が有機的に連携することで、学生一人ひとりの生活全体を支える仕組みを実現しています。開設以降、センターの利用状況も順調に推移しており、月の対応件数は70〜140件台と、安定した相談件数が報告されています。これらの数字は、学生の中に確かな支援ニーズが存在していることを示すと同時に、「困ったときにすぐ相談できる場所」の重要性を裏づけるものです。

また、医療面でのサポート体制も強化しました。従来の内科医による月1回の来学に加え、新たに精神科医が2か月に1回来学し、学生本人だけでなく、教職員が対応に悩むケースについても専門的な助言を受けられるようになりました。これにより、心身の健康問題に関わるような複合的な課題に対しても、専門的かつ早期の支援が可能となりました。今後は、学内連携のみならず、地域の医療・福祉機関とのネットワークを拡充し、切れ目のない支援体制を構築

していく予定です。

ウエルネスセンターのもう一つの大きな柱は「居場所づくり」です。人との関わりに不安を感じる学生や、大人数の中で疲れやすい学生、人目が気になって集中できない学生など、さまざまな事情を抱える学生が安心して過ごせるよう、少人数で穏やかに過ごせるスペースを整備しました。実際の利用数は、月に述べ40〜80件台の利用があり、学生たちにとって身近で利用しやすい支援拠点として機能し始めていると実感しています。また、前期後半からは、昼休みにティーアワーや一人暮らし食事企画なども開催しています。

この空間では、「相談Ⅱ特別なこと」ではなく、「日常の中の自然な対話」として学生が気軽に立ち寄れる雰囲気づくりを重視しています。友人と静かに話したり、一人でゆっくり過ごしたりできる場所として、学生たちにとつての「安心の拠点」になりました。皆様にも、ぜひ一度センターにお越しただき、その空間の温かさを感じていただければ幸いです。なお、センターの概要については学内ホームページでも紹介していますので、併せてご覧ください。

今後は、学生同士が支え合う活動の促進にも力を入れていく予定です。学生同士が気づき支えあいそして繋ぐ仕組みを整え、共感と理解を基盤とした学生主体の支援文化を育てていきます。また、学内の他部門、事務局との連携を強化し、学修支援と心身の健康支援を一体的に展開していきたいと考えています。こうした横断的な取り組みを通じて、本学が地域と共に歩む「誰もが生きやすい学びの場」のモデルとなることを目指していきたいと思っております。

私たちはこのセンターを通じて、すべての学生が自分らしく学び、安心して大学生

活を送ることができるよう、これからも全力で取り組んでまいります。ウエルネスセンターが、学生と教職員、そして地域をつなぐ温かな拠点として発展していけるよう、引き続き皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



ティーアワーの様子



フリールームの様子



一人暮らしの食事企画の様子

白百合祭

挑戦と絆の白百合祭

白百合祭実行委員長 心理福祉学科3年

折笠 未来美

(仙台青英学園高等学校)



第58回白百合祭のテーマは「Follow your heart」でした。自分の気持ちに素直に、心から楽しめる白百合祭を目指して準備を進めてきましたが、当日はまさにそのテーマにふさわしい二日間となりました。

今年地域の方々にも多くご来場いただき、「楽しかった」「また来たい」と直接声をかけていただけたことが大きな励みになりました。雨の中での開催でしたが、800名を超える来場者に恵まれ、餅まきの復活などもあり、大いに盛り上がりました。

実行委員の人数が少なく、2年生や1年生が中心となる異例の体制でしたが、協力し合いながら準備・運営を行い、無事に成功へとつなげることができました。最後になりますが、白百合祭の開催にあたりご支援・ご協力を賜りました企業の皆様をはじめ、地域の皆様、諸先生方や職員の皆様にご心より御礼申し上げます。



学生会

ギアチェンジ!

学生会長 グローバル・スタディーズ学科3年

門間 結希

(宮城県 古川黎明高等学校)



私達学生会は、今年新たな挑戦もでき、学生の皆様の大学生活を盛り上げる

ことができたのではないかと思います。今年度の新入生歓迎イベントでは、寄り添うことを目標とし、SNSを活用して多くの新入生の不安や疑問を解決できたと思います。また、学生会総会では活発な話し合いが行われました。Yukata Dayでは、浴衣を着て日本の伝統を味わい楽しみました。白百合祭の2日目は生憎の雨天だった中でも、多くの来場者で賑わいました。今後計画しているスポーツタイムや学生会クリスマス会も盛り上げていきたいです。

これから「共学化」へと進む大学をリードし、役員一同がギアチェンジをして活躍していくためにも、今後の活動に誠実に取り組んで参ります。いつも支えて下さる教職員の皆様や保証人の皆様、後援会の皆様にご心より感謝申し上げます。今後どうぞ温かいご支援とお力添えを、よろしくお願ひ致します。



魅せプロ

大学の魅力を直接伝える

子ども教育学科1年

高橋 あおば

(古川学園高等学校)



この夏、私たち魅せプロスタッフは、大学の「顔」としてオープンキャンパス

の運営に携わりました。主な活動は、キャンパスツアーでの施設紹介、トークスペースで大学生活についてのQ&A対応、そして施設内の誘導や受付業務です。

活動を通じ、最も強く感じたのは仙台白百合女子大学について「伝える」ことの大切さです。高校生や保護者の方々が持つ期待や不安は様々で、それらを親身に聞き、一人ひとりに合った「この大学の魅力」を真剣に伝えることが求められました。

予期せぬ質問や想像もしていなかったことが起きることもありましたが、スタッフ同士連携し、乗り切ることができました。この経験は、コミュニケーション能力と臨機応変な対応力を養う貴重な機会となりました。

参加者の皆様から「来てよかった」という声を頂いたとき、私たちの活動がこれから学びを共にする仲間づくりへとつながっていることを実感しました。



キャリアコンシェルジュ

挑戦と成長の一年

心理福祉学科4年

土屋 優香

(仙台市立仙台高等学校)



私は大学で「キャリアコンシェルジュ」として約一年間活動し、就職ガイダンス

の運営・サポートに携わってきました。

主な業務は、ガイダンス当日の会場設営や司会進行、校内放送や講師の接待など多岐にわたり、円滑な運営に貢献する役割を担っていました。これまでの学生生活では経験することのなかった責任ある仕事に取り組むことで、柔軟な対応力やコミュニケーション力、チームワークの大切さを学びました。特に、場の空気を読みながら臨機応変に動く力や、限られた時間の中で効率よく行動する力などは、就職活動や社会人生活においても役立つスキルだと実感しています。さらに、この活動を通じてキャリアリソース課の担当者の方から、地元情報誌の取材に同行するという貴重な機会もいただきました。

キャリアコンシェルジュの経験は、自分自身の成長を強く実感できる貴重なものであり、これから社会人生活を迎えるうえでも、大きな自信や支えとなっています。



留学生紹介



牛旭陽

はじめまして、牛旭陽と申します。中国の河北省の出身です。今、山西大学の大学院三年生で、専門は日本語言

語学です。いろいろな趣味があります。例えば、ダンス、KPOPと世界中のコーヒータを味わうことです。もし、あなたも同じ趣味があれば、一緒に交流したいと思います。今回、貴学が提供した留学チャンスのおかげで、日本文化、社会、文学を自分で体験することが出来ます。それだけではなく、先生、学生たちと一緒に日本語で会話する事も可能になります。そのチャンスを大事に利用して、コミュニケーションの能力をさらに高めたいと思います。

日本へ来て以来、もう三ヶ月ほどになりました。最初、先生たちが空港で私たちを迎えた記憶は今までもはつきりしています。そして、学校が主催した大学祭、秋の遠足や松島の旅などのことも楽しい体験をもたらしました。どんなときも、貴学の先生、学生たちは私たちにとっても親切で辛抱強いです。帰国後、ここで学んだ知識や自分の見聞を身近な家族や友人とシェアしようと思います。日中の民間交流の一助となればうれしいです。



李慶雲

こんにちは！中国の山西大学から参りました交換留学生の李慶雲と申します。どうぞよろしくお願

いいたします。仙台に来て、澄み切った青空と街中に息づく緑の豊かさに深く感動しています。本学に初めて足を踏み入れた時、落ち着いた雰囲気と、キャンパス全体に漂う凛とした美しさに心を打たれました。先生方や学生の皆さんも大変親切で、温かく迎え入れてくださいました。

今回の留学では、日本の文学について深く学びたいと考えています。中国文学との比較を通じて、より広い視野から文学の可能性を探求したいです。学業以外では、茶道や華道といった日本の伝統文化を体験し、その精神性を肌で感じたいです。同時に、課外活動にも積極的に参加し、多くの日本の学生や地域の方々と交流を深め、お互いの文化を理解する架け橋になりたいと思います。限られた貴重な時間ですが、一日一日を大切に、多くのことを吸収して成長したいと思



ソニーエリン

はじめまして、私は韓国の誠信女子大学から来たソニーエリンと申します。日本語文

化学科3年生です。日本での留学は日本語の勉強と日本文化の理解を深めたいと思つて来ました。日本語の勉強を始めた切っ掛けはJPOPです。音楽を聞きながら漢字や表現を覚えるのが楽しかったです。好きな音楽は米津玄師さんのレモンです。レモンは私にとつても特別な曲です。日本語の勉強を始める前に知ることになった曲ですが、勉強をすればするほど聞こえてくる歌詞が変わりました。ついに全ての歌詞が理解できるようになった時の嬉しさを今でも覚えています。積み上げてきたことが実る瞬間を経験したことで日本語の勉強がもつと楽しくなつて留学まで繋がりました。

仙台白百合女子大学で授業を受けて感じたことは韓国より小規模で授業時間が短いことです。それで先生と学生の交流が活発ですし、ちゃんと集中しながら勉強ができていいです。そして学校の皆がとても親切で知らないことがあつたら気軽に質問できるし、相談に乗れるので本当にありがたいと思つています。せつかくの機会を無駄にしないようにこれからも頑張つて勉強します。どうぞよろしくお願

新任教員紹介



佐久間 啓彰

子ども教育学科 講師
2025年
9月1日より子ども教育学科に着任いたしました佐久間啓彰です。専門領域

は教育行政学・教育制度論です。「不登校経験者の教育機会」を大きな研究テーマとして掲げ、近年は私立通信制高校の行政に関する研究をしております。

この原稿執筆時点で着任から1ヶ月が経過しました。本学に来て一番驚いたことは、子ども教育学科の先生方が、学科の学生全員の顔と名前を覚え、一人一人に合った教育や対応を考えていることです。これほど個々の学生を大切に考えている大学はなかなかないと思います。私は学生時代の約10年間（大学・大学院を合わせて）、会えば立ち話をし、たまに相談に乗ってもらう関係の先生がいましたが、名前を覚えてもらえず「キミ」と呼ばれ続けました。少し悲しいですが、多分大

学ではこちらの方が普通です。1日も早くこの大学に慣れ、学生の皆さんそれぞれに合った教育や支援ができる教員になりたいと思つております。どうぞよろしくお願

T o p i c s

共学化についてのお知らせ

2027年4月から仙台白百合女子大学を男女共学に移行することを決定いたしました。

本学の特徴を活かしつつ、性別に関わらず、すべての人に門戸を開き、カトリック大学としての教育機会を提供し続けることができますよう、全教職員が一丸となって、よりよい大学づくりに取り組んでまいります。

教職員表彰式を行いました

本学では、2025年4月に新たに施行された教職員表彰制度に基づき、教育・研究活動、学内運営、地域・社会貢献等において顕著な功績を挙げた教職員の表彰を行いました。

この制度は、教職員の意識向上を図り、より豊かな学びと研究環境の創出、また地域・社会との連携強化を目指すものです。推薦を受けた候補者は選考委員会の審議を経て、加藤学長により表彰されました。

贈呈は、教員は6月18日(水)の教授会、職員は6月24日(火)の全体会にて行われ、会議終了後にそれぞれ記念撮影を行いました。

受賞者

- 子ども教育学科 千 凡晋 准教授
- 心理福祉学科 結城 裕也 准教授
- グローバル・スタディーズ学科 熊谷 健二 准教授
- 国際交流センター 千葉 智枝 氏



さくら基金のご案内

仙台白百合女子大学では、2026年度より修学支援制度「さくら基金」が始まります。本基金は、芳野総子名誉教授からのご寄付により設立されたもので、県内外で一人暮らしを始める新入学生を対象に、入学時に一度限り5万円を給付する制度です。(カトリック奨学金の対象者は除きます)



創立60周年 特別講演・感謝ミサご案内

2026年7月4日(土)午後、カトリック研究所主催の創立60周年企画として、カトリック東京大司教区の菊地功枢機卿様による特別講演と、カトリック仙台教区ガクタン・エドガル司教様との共同司式による感謝ミサを開催いたします。女子大学の歴史を共学の未来へつなぐこの機会に、本学のご関係者をはじめ、地域の方々、高校生の皆さまも、どうぞ東北唯一の四年制カトリック大学までお越しくださいませ。

創立60周年記念鼎談

創立60周年を記念し、親子2世代で本学に通う菅原さん親子と加藤学長による鼎談を特設サイトで公開しています。鼎談では卒業生・保護者・在学生という異なる立場から語られる「仙台白百合らしさ」をはじめ、留学制度や、学生支援、2027年の共学化への想いなど、多彩なテーマが展開されています。世代を超えて受け継がれる本学の魅力と、挑戦を後押しする環境について語られた内容は、これから進学を考える方にも必見です。

QRコードから
ぜひご覧ください。



交換留学生修了式を行いました

2025年7月22日(火)本学クララで交換留学生修了式が執り行なわれました。韓国・誠信女子大学校からの留学生である林秀賢(いむ すひょん)さんに、加藤学長より修了証書が渡されました。その後、林さんから挨拶があり、お世話になった方々への感謝の言葉や留学中に体験したことに関する思い出などが述べられました。



2024年度 財務報告 financial report

2024年度財務報告・寄付金の御礼

資金収支計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで (単位 円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	763,673,100	766,333,100	△ 2,660,000
手数料収入	8,500,000	4,845,800	3,654,200
寄付金収入	9,000,000	42,459,576	△ 33,459,576
補助金収入	185,880,000	189,244,364	△ 3,364,364
国庫補助金収入	185,000,000	188,419,800	△ 3,419,800
地方公共団体補助金収入	880,000	824,564	55,436
その他補助金収入	0	0	0
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	15,100,000	14,125,480	974,520
受取利息・配当金収入	4,000,000	4,283,636	△ 283,636
雑収入	46,020,000	52,052,832	△ 6,032,832
借入金等収入	806,647,580	806,647,580	0
前受金収入	126,695,000	95,560,000	31,135,000
その他の収入	22,386,993	23,049,974	△ 662,981
資金収支調整勘定	△ 112,680,000	△ 115,192,600	2,512,600
前年度繰越支払資金	77,859,843	77,859,843	
収入の部合計	1,953,082,516	1,961,269,585	△ 8,187,069
支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	821,400,000	824,360,975	△ 2,960,975
教育研究経費支出	282,750,000	229,295,926	53,454,074
管理経費支出	82,669,000	88,573,598	△ 5,904,598
借入金等利息支出	3,887,580	3,887,580	0
借入金等返済支出	652,760,000	652,760,000	0
施設関係支出	33,330,000	11,681,010	21,648,990
設備関係支出	13,000,000	10,137,374	2,862,626
資産運用支出	0	0	0
その他の支出	41,326,162	45,948,389	△ 4,622,227
(予備費)	10,000,000		10,000,000
資金支出調整勘定	△ 43,000,000	△ 47,189,576	4,189,576
翌年度繰越支払資金	54,959,774	141,814,309	△ 86,854,535
支出の部合計	1,953,082,516	1,961,269,585	△ 8,187,069

貸借対照表

令和7年3月31日現在 (単位 円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	3,101,468,858	3,208,327,720	△ 106,858,862
有形固定資産	2,700,246,438	2,807,205,300	△ 106,958,862
土地	41,666,199	41,666,199	0
建物	2,118,712,774	2,203,164,082	△ 84,451,308
構築物	3,300,016	3,990,238	△ 690,222
教育研究用機器備品	108,930,679	130,428,568	△ 21,497,889
管理用機器備品	6,423,227	5,454,387	968,840
図書	421,213,537	422,028,901	△ 815,364
車両	6	472,925	△ 472,919
建設仮勘定	0	0	0
特定資産	400,000,000	400,000,000	0
減価償却引当特定資産	0	0	0
退職給付引当特定資産	400,000,000	400,000,000	0
第3号基金引当特定資産	0	0	0
その他の引当特定資産	0	0	0
その他の固定資産	1,222,420	1,122,420	100,000
著作権	0	0	0
その他の固定資産	1,222,420	1,122,420	100,000
流動資産	175,279,570	107,359,778	67,919,792
現金預金	141,814,309	77,859,843	63,954,466
未収入金	29,712,600	23,496,993	6,215,607
その他の流動資産	3,752,661	6,002,942	△ 2,250,281
資産の部合計	3,276,748,428	3,315,687,498	△ 38,939,070
負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	1,605,771,593	1,453,030,130	152,741,463
長期借入金	1,124,851,680	970,964,100	153,887,580
退職給付引当金	480,919,913	482,066,030	△ 1,146,117
その他の固定負債	0	0	0
流動負債	253,490,376	242,069,189	11,421,187
短期借入金	102,760,000	102,760,000	0
前受金	95,560,000	85,480,000	10,080,000
その他の流動負債	55,170,376	53,829,189	1,341,187
負債の部合計	1,859,261,969	1,695,099,319	164,162,650
純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
基本金	7,955,678,354	7,876,906,425	78,771,929
第1号基本金	7,864,678,354	7,785,906,425	78,771,929
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	91,000,000	91,000,000	0
繰越収支差額	△ 6,538,191,895	△ 6,256,318,246	△ 281,873,649
翌年度繰越収支差額	△ 6,538,191,895	△ 6,256,318,246	△ 281,873,649
純資産の部合計	1,417,486,459	1,620,588,179	△ 203,101,720
負債及び純資産の部合計	3,276,748,428	3,315,687,498	△ 38,939,070

事業活動収支計算書

令和6年4月1日から令和7年3月31日まで (単位 円)

事業活動収入の部				
科目	予算	決算	差異	
学生生徒等納付金	763,673,100	766,333,100	△ 2,660,000	
手数料	8,500,000	4,845,800	3,654,200	
寄付金	9,000,000	42,459,576	△ 33,459,576	
経常費等補助金	185,280,000	188,644,364	△ 3,364,364	
国庫補助金収入	185,000,000	188,419,800	△ 3,419,800	
地方公共団体補助金収入	280,000	224,564	55,436	
その他補助金収入	0	0	0	
付随事業収入	15,100,000	14,125,480	974,520	
雑収入	46,020,000	52,052,832	△ 6,032,832	
教育活動収入合計	1,027,573,100	1,068,461,152	△ 40,888,052	
事業活動支出の部				
科目	予算	決算	差異	
人件費	827,190,000	823,214,858	3,975,142	
教育研究経費	400,750,000	347,459,302	53,290,698	
管理経費	93,129,000	97,953,459	△ 4,824,459	
徴収不能額等	0	2,697,300	△ 2,697,300	
教育活動支出合計	1,321,069,000	1,271,324,919	49,744,081	
教育活動収支差額	△ 293,495,900	△ 202,863,767	△ 90,632,133	
教育活動外収入の部				
科目	予算	決算	差異	
受取利息・配当金	4,000,000	4,283,636	△ 283,636	
その他の教育活動外収入	0	0	0	
教育活動外収入合計	4,000,000	4,283,636	△ 283,636	
教育活動外支出の部				
科目	予算	決算	差異	
借入金等利息	3,887,580	3,887,580	0	
その他の教育活動外支出	0	0	0	
教育活動外支出合計	3,887,580	3,887,580	0	
教育活動収支差額	112,420	396,056	△ 283,636	
経常収支差額	△ 293,383,480	△ 202,467,711	△ 90,915,769	
特別収入の部				
科目	予算	決算	差異	
資産売却差額	0	0	0	
その他の特別収入	600,000	2,846,325	△ 2,246,325	
施設設備寄付金	0	0	0	
現物寄付	0	2,246,325	△ 2,246,325	
施設設備補助金	600,000	600,000	0	
その他	0	0	0	
特別収入合計	600,000	2,846,325	△ 2,246,325	
特別支出の部				
科目	予算	決算	差異	
資産処分差額	0	2,399,833	△ 2,399,833	
その他の特別支出	0	1,080,501	△ 1,080,501	
特別支出合計	0	3,480,334	△ 3,480,334	
特別収支差額	600,000	△ 634,009	1,234,009	
(予備費)	10,000,000		10,000,000	
基本金組入前当年度収支差額	△ 302,783,480	△ 203,101,720	△ 99,681,760	
基本金組入額合計	△ 105,100,000	△ 78,771,929	△ 26,328,071	
当年度収支差額	△ 407,883,480	△ 281,873,649	△ 126,009,831	
前年度繰越収支差額	△ 6,256,318,246	△ 6,256,318,246	0	
基本金取崩額	0	0	0	
翌年度繰越収支差額	△ 6,664,201,726	△ 6,538,191,895	△ 126,009,831	
(参考)				
事業活動収入合計	1,032,173,100	1,075,591,113	△ 43,418,013	
事業活動支出合計	1,334,956,580	1,278,692,833	56,263,747	

寄付金の御礼

2024 (令和6) 年10月1日から2025 (令和7) 年9月30日までの寄付状況をご報告いたします。皆様のご協力に深く感謝し、厚く御礼申し上げます。

【寄付者御芳名】(順不同 敬称略)

森 道子 宮崎 正美 芳野 総子 坂根 治美 谷内 一彦 半田 芳吉 小村 毅 横尾 元意 鈴木 功子 宮崎 泰輔
 小田島 毅 大崎 充 高橋 幸治 遠藤 剛史 笹本 幸栄 森 清一 佐藤 忍 大坂 乃愛 渡邊 康博 佐々木 崇
 小椋 妙子 畠山 伊代子 佐々木 博子 菅原 香織 齋藤 久美子 西脇 早苗 相澤 葉月 山崎 篤子 小野 和子 三浦 とし子
 高橋 友恵 浅野 恵子 高木 貴恵子 白鳥 マリ 古川 知子 武田 絵美 天粕 裕子 本宮 こころ 小田中 美有 加藤 秀子
 星 洋子 戸田 哲子 中谷 和子 星 佳苗 浅野 まり子 渡辺 美幸 小川 由紀子 生形 富子 神保 美穂 服部 きみ
 佐々木 八江子 吉田 豊子 山田 恵子 氏家 幸子 高澤 菜穂子 藤井 恵美 千葉 よう子 納庄 克子 阿部 馨
 曳地 望 村上 節 西館 富久子
 一般財団法人杉山産業化学研究所
 仙台白百合女子大学後援会 同名1名

区分	件数	金額
在学生保証人	11	200,000
教職員等	10	31,640,000
団体・法人等	2	7,390,000
一般篤志家等	1	50,000
同窓生	47	661,576
計	71	39,941,576

寄付金担当 (総務課)
 電話 022-372-3254
 FAX 022-375-4343
 E-mail shomu@sendai-shirayuri.ac.jp

2026年度 仙台白百合女子大学 学生募集について

※出願の際は、学生募集要項をご確認ください。

【一般選抜（A日程）】

●出願期間および試験日等

出願期間	試験日	合格発表日
2026年1月5日（月）～1月26日（月） 当日消印有効	2月5日（木）	2月13日（金）

●選抜方法 ①書類 ②学力試験

●試験科目

教科	試験科目
国語	現代の国語、言語文化（ただし古文・漢文を除く）
外国語	英語（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、論理・表現Ⅰの内容を含む）

●試験場 ①本学会場 ②青森会場【青森県観光物産館アスパム】 ③盛岡会場【マリオス】 ④秋田会場【秋田県総合保健センター】 ⑤山形会場【ヤマコーホール】 ⑥郡山会場【郡山商工会議所】

【一般選抜（B日程）】

●出願期間および試験日等

出願期間	試験日	合格発表日
2026年2月6日（金）～2月18日（水） 当日消印有効	3月3日（火）	3月9日（月）

●選抜方法 ①書類 ②学力試験

●試験科目

教科	試験科目
国語	現代の国語、言語文化（ただし古文・漢文を除く）
外国語	英語（英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、論理・表現Ⅰの内容を含む）

【一般選抜（C日程）】

●出願期間および試験日等

出願期間	試験日	合格発表日
2026年2月19日（木）～3月6日（金） 当日消印有効	3月16日（月）	3月19日（木）

●選抜方法 ①書類 ②小論文（基礎学力を問う出題を含む 60分） ③面接（個別面接）

【大学入学共通テスト利用選抜（A日程・B日程・C日程）】

●出願期間および試験日等

	出願期間	試験日	合格発表日
A日程	2026年1月5日（月）～1月28日（水） 当日消印有効	2026年度大学入学共通テストを受験	2月13日（金）
B日程	2026年2月6日（金）～2月18日（水） 当日消印有効		3月9日（月）
C日程	2026年2月19日（木）～3月6日（金） 当日消印有効		3月19日（木）

●指定教科・科目 ※大学入学共通テスト利用選抜A日程・B日程・C日程ともに共通です。

学科・専攻	教科	試験科目	
子ども教育学科	国語	『国語』（近代以降の文章）	必須
	外国語	『英語』（リスニングテストを含む）	
	地理歴史・公民	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』『地理総合/歴史総合/公共』	
	数学	『数学Ⅰ、数学A』『数学Ⅰ』『数学Ⅱ、数学B、数学C』	
	理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』	
心理福祉学科	国語	『国語』（近代以降の文章）	必須
	外国語	『英語』（リスニングテストを含む）	
	地理歴史・公民	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』『地理総合/歴史総合/公共』	
	数学	『数学Ⅰ、数学A』『数学Ⅰ』『数学Ⅱ、数学B、数学C』	
	理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』	
健康栄養学科 管理栄養専攻	国語	『国語』（近代以降の文章）	必須
	外国語	『英語』（リスニングテストを含む）	
	数学	『数学Ⅰ、数学A』『数学Ⅰ』	
	理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』	
	情報	『情報Ⅰ』	
グローバル・ スタディーズ学科	外国語	『英語』（リスニングテストを含む）	必須
	国語	『国語』（近代以降の文章）	
	地理歴史・公民	『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』『地理総合/歴史総合/公共』	
	数学	『数学Ⅰ、数学A』『数学Ⅰ』『数学Ⅱ、数学B、数学C』	
	理科	『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』『物理』『化学』『生物』『地学』	

※各科目の配点は100点満点とします。

※『国語』（近代以降の文章）は、110点満点を100点満点に換算します。

※『英語』（リスニングテストを含む）は、200点満点を100点満点に換算します。

※『地理総合/歴史総合/公共』は、2つの出題範囲を解答することで1科目とみなします。

※『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』は、2つの出題範囲を解答することで1科目とみなします。

※選択科目では、本学指定の受験科目のうち、高得点の科目を合否判定に使用します。